

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年4月11日

【発行者名】 SBIアセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 梅本 賢一

【本店の所在の場所】 東京都港区六本木一丁目6番1号

【事務連絡者氏名】 山下 明美

【電話番号】 03-6229-0170

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】 SBI・iシェアーズ・日経225インデックス・ファンド

【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】 当初申込期間 上限1,000億円
継続申込期間 上限5,000億円

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

半期報告書を提出したことに伴い、2023年6月16日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を更新するため、また、委託会社の合併時商号継承説明の削除および電子公告への移行に伴うホームページアドレス変更ならびに社内体制の更新、2024年1月1日以降の少額投資非課税制度の記載等、記載事項の一部に訂正事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

2【訂正箇所および訂正事項】

下線部 _____ が訂正部分です。

原届出書の該当事項については、それぞれ下記の内容に訂正されます。

第一部 【証券情報】

(2) 【内国投資信託受益証券の形態等】

<訂正前>

契約型の追加型証券投資信託の受益権です。

本ファンドの当初元本は1口当たり1円です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付もありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社であるSBIアセットマネジメント株式会社（2023年4月1日に、SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、新生インベストメント・マネジメント株式会社と合併しました。なお、商号はSBIアセットマネジメント株式会社を継承しました。）（以下「委託者」または「委託会社」という場合があります。）は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

<訂正後>

契約型の追加型証券投資信託の受益権です。

本ファンドの当初元本は1口当たり1円です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付もありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記の「(11) 振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社であるSBIアセットマネジメント株式会社（以下「委託者」または「委託会社」という場合があります。）は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(4) 【発行（売出）価格】

（略）

<訂正前>

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社）

電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <http://www.sbi-am.co.jp/>

<訂正後>

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社）

電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.sbi-am.co.jp/>

第二部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(1) 【ファンドの目的及び基本的性格】

(略)

ファンドの特色

<訂正前>

(略)

追加的記載事項

iシェアーズETFについて

- ETF市場シェアNo.1^{*1}のマーケットリーダー
- iシェアーズETFは、世界最大^{*2}の資産運用会社、ブラックロック・グループが運用する上場投資信託(ETF)です。運用資産残高、商品数ともに世界のETF市場No.1。ETF市場残高の31.9%のシェアを持つマーケットリーダーです。
- iシェアーズETFを運用するブラックロックは、「人々の人生を豊かにすることに貢献したい」という志のもと、8人のパートナーにより1988年にニューヨークで設立されました。現在、ブラックロックは世界約30か国、70都市で、世界の主要な金融機関、年金基金、財団、公的機関、個人投資家のお客様に幅広い資産運用サービス及び商品を提供しています。

出所：※1 BLACKROCK GLOBAL ETP Landscape (2022年12月)

※2 Thinking Ahead Institute, "The world's largest 500 asset managers" (2022年10月)、グローバルの運用資産残高ベース

(略)

<訂正後>

(略)

追加的記載事項**iシェアーズETFについて**

- ETF市場シェアNo.1^{*1}のマーケットリーダー
- iシェアーズETFは、世界最大^{*2}の資産運用会社、ブラックロック・グループが運用する上場投資信託(ETF)です。運用資産残高、商品数ともに世界のETF市場No.1。ETF市場残高の31.5%のシェアを持つマーケットリーダーです。
- iシェアーズETFを運用するブラックロックは、「人々の人生を豊かにすることに貢献したい」という志のもと、8人のパートナーにより1988年にニューヨークで設立されました。現在、ブラックロックは世界約30か国、70都市で、世界の主要な金融機関、年金基金、財団、公的機関、個人投資家のお客様に幅広い資産運用サービス及び商品を提供しています。

出所：※1 BLACKROCK GLOBAL ETP Landscape (2023年3月)

※2 Thinking Ahead Institute, "The world's largest 500 asset managers" (2023年10月)、グローバルの運用資産残高ベース

(略)

(2) 【ファンドの沿革】

<訂正前>

2023年7月12日 信託契約締結、ファンドの設定・運用開始(予定)

<訂正後>

2023年7月12日 信託契約締結、ファンドの設定・運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

(略)

<訂正前>

委託会社の概況(2023年4月1日現在)

(略)

()大株主の状況

| 株主名 | 住所 | 所有株数 | 所有比率 |
|------------------------|---|------------|-------|
| SBIグローバルアセットマネジメント株式会社 | 東京都港区六本木一丁目6番1号 | 1,335,066株 | 94.8% |
| PIMCO ASIA LIMITED | Suite 2201,22nd Floor, Two International Finance Centre,8 Finance Street,Central,Hong Kong | 29,507株 | 2.1% |

<訂正後>

委託会社の概況(2024年1月末日現在)

(略)

()大株主の状況

| 株主名 | 住所 | 所有株数 | 所有比率 |
|------------------------|---|------------|-------|
| SBIグローバルアセットマネジメント株式会社 | 東京都港区六本木一丁目6番1号 | 1,378,823株 | 97.9% |
| PIMCO ASIA LIMITED | Suite 2201,22nd Floor, Two International Finance Centre,8 Finance Street,Central,Hong Kong | 29,507株 | 2.1% |

2 【投資方針】

(3) 【運用体制】

以下の内容に訂正・更新します。

運用業務方法に関する社内規則に則り、以下のプロセスで運用が行われます。

市場環境分析・企業分析

ファンドマネジャー、アナリストによる市場環境、業種、個別企業などの調査・分析及び基本投資戦略の協議・策定を行います。

投資基本方針の策定

最高運用責任者のもとで開催される「運用会議」において、市場動向・投資行動・市場見通し・投資方針等を策定します。

最高運用責任者は、組織規定の運用部門の長とします。

運用基本方針の決定

「運用会議」の策定内容を踏まえ、常勤取締役、最高運用責任者、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成される「投資戦略委員会」において、運用の基本方針が決定されます。

投資銘柄の策定、ポートフォリオの構築

ファンドマネジャーは、この運用の基本方針に沿って、各ファンドの運用計画書を策定し、最高運用責任者の承認後、売買の指図を行います。

ただし、未公開株及び組合への投資を行う場合は、それぞれ「未公開株投資委員会」、「組合投資委員会」での承認後、売買の指図等を行います。

パフォーマンス分析、リスク分析・評価

ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行い、運用方針の確認・見直しを行います。

(略)

3 【投資リスク】

(略)

《リスク管理体制》

(略)

以下の内容に訂正・更新します。

運用者の意思決定方向を調整・相互確認するために、下記の会議を運営します。

| 会議の名称 | 頻度 | 内 容 |
|---------------|-------|--|
| 投資戦略委員会 | 原則月1回 | 常勤取締役、最高運用責任者、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する。 運用の基本方針 市場見通し、等について協議する。 |
| 運用会議 | 原則月1回 | 最高運用責任者、運用部及び商品企画部に在籍する者をもって構成する。 市場動向 今月の投資行動 市場見通し 今後の投資方針、等についての情報交換、議論を行う。 |
| リスク管理委員会 | 原則月1回 | 常勤取締役、最高運用責任者、リスク管理部長、商品企画部長、マーケティング部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する。 ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視等を行う。 |
| ファンドマネジャー会議 | 随時 | 運用担当者及び調査担当者をもって構成する。 個別銘柄の調査報告及び情報交換、ファンドの投資戦略について議論を行う。 |
| 未公開株投資委員会 | 随時 | 最高運用責任者、運用部長、未公開株運用担当者、未公開株調査担当者及びコンプライアンス部長をもって構成する。 未公開株式の購入及び売却の決定を行う。 |
| 組合投資委員会 | 随時 | 最高運用責任者、運用部長、組合運用担当者、組合の投資する資産の調査担当者及びコンプライアンス部長をもって構成する。 組合への新規投資及び契約変更の決定を行う。 |
| 商品検討委員会 | 随時 | 常勤取締役、運用部長、リスク管理部長、投信計理部長、コンプライアンス部長、商品企画部長、マーケティング部長及び業務管理部長をもって構成する。 新商品等についての取扱い等の可否、商品性の変更に関連する基本事項等の審議・決定を行う。 |
| コンプライアンス委員会 | 原則月1回 | 常勤取締役及びコンプライアンス部長をもって構成する。 法令等、顧客ガイドライン、社内ルールの遵守状況の報告及び監視を行う。 |
| プロダクトガバナンス委員会 | 原則月1回 | 常勤取締役、運用部長、リスク管理部長、コンプライアンス部長、商品企画部長、マーケティング部長及び業務管理部長をもって構成する。 基本的商品戦略について、投資戦略委員会・運用会議・商品検討委員会の内容、市況及び業界動向を鑑みた上で決定する。また、商品戦略に係る对外公表を担当する。 |

上記体制は、今後、変更となる場合があります。

(略)

（参考情報）につきましては、以下の内容に訂正・更新します。

（参考情報）

ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



*上記の分配金再投資基準価額及び年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額及び実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。また、本ファンドは設定から1年経過していないため、ベンチマーク(日経平均トータルリターン・インデックス)の年間騰落率の推移を表示しています。

*「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」は、過去5年間の年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

*ファンドの年間騰落率算出において、過去5年間分のデータがない場合は以下のルールに基づき表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示しています。

《代表的な各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数(除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数(除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

*海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

《各指数の概要》

日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar 先進国株式指数(除く日本)は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstar グローバル国債指数(除く日本)は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

《重要事項》

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はモーニングスター・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社(これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います)が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス(以下「Morningstarインデックス」と言います)の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与していません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び/又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害(逸失利益を含む)について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

(3)【信託報酬等】

<訂正前>

| | | | |
|-------------------------------|---|---------|--|
| ファンド | <p>ファンドの日々の純資産総額に年0.0638%（税抜：年0.058%）の率を乗じて得た金額とします。当該報酬は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（休業日の場合は翌営業日）及び毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。</p> <p>信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率</p> <p>< 信託報酬の配分（税抜） ></p> | | |
| | 支払先 | 料率 | 役務の内容 |
| | 委託会社 | 年0.022% | ファンドの運用、基準価額の算出、ディスクロージャー等の対価 |
| | 販売会社 | 年0.022% | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理及び事務手続き等の対価 |
| | 受託会社 | 年0.014% | 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価 |
| 上記各支払先への料率には、別途消費税等相当額がかかります。 | | | |
| 投資対象とする投資信託証券 | <p>年0.0495%（税抜0.045%）</p> <p>* 投資するETF（上場投資信託証券）の信託報酬</p> | | |
| 実質的な負担 | <p>年0.1133%（税抜0.103%）程度</p> <p>* ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加味した、投資者の皆様が負担する信託報酬率になります。</p> | | |

(略)

<訂正後>

| | | | |
|-------------------------------|---|---------|--|
| ファンド | <p>ファンドの日々の純資産総額に年0.0638%（税抜：年0.058%）の率を乗じて得た金額とします。当該報酬は、毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（休業日の場合は翌営業日）及び毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。</p> <p>信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率</p> <p>< 信託報酬の配分（税抜） ></p> | | |
| | 支払先 | 料率 | 役務の内容 |
| | 委託会社 | 年0.022% | ファンドの運用、基準価額の算出等の対価 |
| | 販売会社 | 年0.022% | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理及び事務手続き等の対価 |
| | 受託会社 | 年0.014% | 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価 |
| 上記各支払先への料率には、別途消費税等相当額がかかります。 | | | |
| 投資対象とする投資信託証券 | <p>年0.0495%（税抜0.045%）</p> <p>* 投資するETF（上場投資信託証券）の信託報酬</p> | | |
| 実質的な負担 | <p>年0.1133%（税抜0.103%）程度</p> <p>* ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加味した、投資者の皆様が負担する信託報酬率になります。</p> | | |

(略)

(5) 【課税上の取扱い】

<訂正前>

ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

収益分配時・換金（解約）・償還時に受益者が負担する税金は2023年3月末日現在、以下の通りです。なお、以下の内容は税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

（略）

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度です。

NISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となりますが、2024年1月1日以降は、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。

また、2024年1月1日以降は、税法上の要件を満たした商品を購入した場合に限り、非課税の適用を受けることができます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

税制が改正された場合には、変更となる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家に確認されることをお勧めします。

（略）

<訂正後>

ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

収益分配時・換金（解約）・償還時に受益者が負担する税金は2024年1月末日現在、以下の通りです。

また、公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。

なお、当ファンドはNISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」及び「つみたて投資枠（特定累積投資勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

（略）

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

（略）

5【運用状況】

以下の内容に訂正・更新します。

(1)【投資状況】

(2024年1月31日現在)

| 資産の種類 | 国/地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|---------------------|------|---------------|---------|
| 投資信託受益証券 | 日本 | 1,788,673,230 | 100.92 |
| 現金・預金・その他の資産(負債控除後) | - | 16,392,766 | 0.92 |
| 合計(純資産総額) | | 1,772,280,464 | 100.00 |

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

(2024年1月31日現在)

| 順位 | 国/地域 | 種類 | 銘柄名 | 数量又は 額面総額 | 帳簿価額 単価 (円) | 帳簿価額 金額 (円) | 評価額 単価 (円) | 評価額 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|----|------|--------------|------------------------------------|--------------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 1 | 日本 | 投資信託受 益証券 | ISHARES CORP NIKKEI 225 ET F | 47,207 | 35,160 | 1,659,805,439 | 37,890 | 1,788,673,230 | 100.92 |

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

ロ. 種類別投資比率

(2024年1月31日現在)

| 種類 | 投資比率(%) |
|----------|---------|
| 投資信託受益証券 | 100.92 |
| 合計 | 100.92 |

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

2024年1月31日（直近日）現在、同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

| 期別 | 純資産総額（円） | | 1口当たり純資産額（円） | |
|------------|---------------|-------|--------------|-------|
| | （分配落） | （分配付） | （分配落） | （分配付） |
| 2023年 7月末日 | 126,907,796 | - | 1.0330 | - |
| 8月末日 | 221,358,649 | - | 1.0153 | - |
| 9月末日 | 328,857,212 | - | 0.9979 | - |
| 10月末日 | 563,793,016 | - | 0.9671 | - |
| 11月末日 | 670,088,581 | - | 1.0459 | - |
| 12月末日 | 875,607,909 | - | 1.0455 | - |
| 2024年 1月末日 | 1,772,280,464 | - | 1.1360 | - |

(注)表中の末日とはその月の最終営業日を指します。

【分配の推移】

該当事項はありません。

【収益率の推移】

| 期 | 計算期間 | 収益率（％） |
|-----------|-------------------------|--------|
| 第1中間計算期間末 | 2023年 7月12日～2024年 1月11日 | 9.8 |

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数を記載しております。

なお、第1計算期間の収益率は、前計算期間末（設定時）の基準価額を10,000円として計算しております。

（４）【設定及び解約の実績】

| 期 | 計算期間 | 設定口数（口） | 解約口数（口） | 発行済み口数（口） |
|-----------|-------------------------|---------------|-------------|---------------|
| 第1中間計算期間末 | 2023年 7月12日～2024年 1月11日 | 1,425,900,097 | 395,058,357 | 1,030,841,740 |

(注)本邦外における設定及び解約の実績はありません。

第1中間計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

<参考情報>

運用実績

基準価額・純資産の推移

(基準日:2024年1月31日)

(設定日(2023年7月12日)~2024年1月31日)



※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は運用管理費用(信託報酬)控除後の1万口当たりの値です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しています。

| | |
|--------------|---------|
| 基準価額(1万口当たり) | 11,360円 |
| 純資産総額 | 17.72億円 |

分配の推移(1万口当たり、税引前)

| 決算期 | 金額 |
|-------|----|
| — | — |
| 設定来累計 | 0円 |

主要な資産の状況(マザーファンド)

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しています。

※比率は表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

<組入銘柄>

| 投資対象ファンドの名称 | 種類 | 国/地域 | 通貨 | 比率 |
|---------------------|--------|------|-----|--------|
| iシェアーズ・コア 日経225 ETF | 投資信託証券 | 日本 | 日本円 | 100.9% |
| 現金等 | | | | -0.9% |
| 合計 | | | | 100.0% |

年間収益率の推移(暦年ベース)



※ファンドの年間収益率は、税引前分配金再投資基準価額の騰落率です。

※2022年まではベンチマーク(日経平均トータルリターン・インデックス)の騰落率です。

※ベンチマークの年間収益率は国内の取引所の営業日に準じて算出しております。

※2023年は設定日2023年7月12日から年末まで、2024年は1月末までの騰落率です。

※ベンチマークの情報はあくまで参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。

最新の運用実績は、委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

第2 【管理及び運営】

1 【申込（販売）手続等】

()お申込日

(略)

<訂正前>

委託会社における照会先：

| |
|---|
| SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社） 電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時） ホームページ http://www.sbi-am.co.jp/ |
|---|

<訂正後>

委託会社における照会先：

| |
|---|
| SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社） 電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時） ホームページ https://www.sbi-am.co.jp/ |
|---|

2 【換金（解約）手続等】

a. 換金の受付

(略)

<訂正前>

委託会社における照会先：

| |
|---|
| SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社） 電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時） ホームページ http://www.sbi-am.co.jp/ |
|---|

<訂正後>

委託会社における照会先：

| |
|---|
| SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社） 電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時） ホームページ https://www.sbi-am.co.jp/ |
|---|

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

() 基準価額の算出頻度・照会方法等

(略)

<訂正前>

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社）
電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ <http://www.sbiam.co.jp/>

<訂正後>

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社）
電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ <https://www.sbiam.co.jp/>

(5) 【その他】

(略)

() 公告

<訂正前>

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。
<http://www.sbiam.co.jp/>

(略)

<訂正後>

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。
<https://www.sbiam.co.jp/>

(略)

第3【ファンドの経理状況】

以下の内容に訂正・更新します。

- 1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに、同規則第38条の3及び同規則第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- 2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期中間計算期間(2023年7月12日から2024年1月11日まで)の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる中間監査を受けております。

1【財務諸表】

中間財務諸表

【SBI・iシェアーズ・日経225インデックス・ファンド】

(1)【中間貸借対照表】

(単位：円)

| | | 第1期中間計算期間 2024年 1月11日現在 |
|-----------------|--|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| コール・ローン | | 56,596,194 |
| 投資信託受益証券 | | 1,141,515,480 |
| 流動資産合計 | | 1,198,111,674 |
| 資産合計 | | 1,198,111,674 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | | 50,044,967 |
| 未払解約金 | | 16,216,419 |
| 未払受託者報酬 | | 34,119 |
| 未払委託者報酬 | | 107,184 |
| 未払利息 | | 232 |
| その他未払費用 | | 199,208 |
| 流動負債合計 | | 66,602,129 |
| 負債合計 | | 66,602,129 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | | 1,030,841,740 |
| 剰余金 | | |
| 中間剰余金又は中間欠損金() | | 100,667,805 |
| 元本等合計 | | 1,131,509,545 |
| 純資産合計 | | 1,131,509,545 |
| 負債純資産合計 | | 1,198,111,674 |

（２）【中間損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

| | 第1期中間計算期間 自 2023年 7月12日 至 2024年 1月11日 |
|---|---|
| 営業収益 | |
| 受取配当金 | 1,498,540 |
| 有価証券売買等損益 | 83,018,224 |
| 営業収益合計 | 84,516,764 |
| 営業費用 | |
| 支払利息 | 13,858 |
| 受託者報酬 | 34,119 |
| 委託者報酬 | 107,184 |
| その他費用 | 199,208 |
| 営業費用合計 | 354,369 |
| 営業利益又は営業損失（ ） | 84,162,395 |
| 経常利益又は経常損失（ ） | 84,162,395 |
| 中間純利益又は中間純損失（ ） | 84,162,395 |
| 一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ） | 6,905,051 |
| 期首剰余金又は期首欠損金（ ） | - |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | 25,420,891 |
| 中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | 25,420,891 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | 2,010,430 |
| 中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | 2,010,430 |
| 中間剰余金又は中間欠損金（ ） | 100,667,805 |

（３）【中間注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

| | |
|-------------------------|--|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場によっております。 |
| 2. 収益及び費用の計上基準 | 受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を計上し、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上し、入金金額との差額については入金時に計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 |
| 3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項 | ファンドの中間計算期間 当ファンドの計算期間は原則として、毎年7月11日から翌年7月10日までとしておりますが、第1期中間計算期間は期首が設定日のため、2023年7月12日から2024年1月11日までとなっております。 |

（中間貸借対照表に関する注記）

| 項目 | 第1期中間計算期間 2024年1月11日現在 |
|-------------------------------------|---------------------------|
| 1. 当該中間計算期間の末日における受益権の総数 | 1,030,841,740口 |
| 2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額 | - |
| 3. 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額) | 1.0977円 (10,977円) |

（中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

第1期中間計算期間（自 2023年7月12日 至 2024年1月11日）

該当事項はありません。

（金融商品に関する注記）

金融商品の時価等に関する事項

| 項目 | 第1期中間計算期間 2024年1月11日現在 |
|----------------------------|--|
| 1. 中間貸借対照表計上額、時価及びその差額 | 中間貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 |
| 2. 時価の算定方法 | 投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品は、短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。 |
| 3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 |

（有価証券に関する注記）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

(元本の移動)

| 項目 | 第1期中間計算期間 自 2023年 7月12日 至 2024年 1月11日 |
|----------------|---|
| 投資信託財産に係る元本の状況 | |
| 期首元本額 | 67,049,616円 |
| 期中追加設定元本額 | 1,358,850,481円 |
| 期中一部解約元本額 | 395,058,357円 |

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

2024年1月31日現在

| | |
|----------------|----------------|
| 資産総額 | 1,831,991,599円 |
| 負債総額 | 59,711,135円 |
| 純資産総額（ - ） | 1,772,280,464円 |
| 発行済口数 | 1,560,162,800口 |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 1.1360円 |
| （1万口当たり純資産額） | （11,360円） |

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

<訂正前>

資本金の額

() 資本金の額(2023年4月1日現在)

(略)

<訂正後>

資本金の額

() 資本金の額(2024年1月末日現在)

(略)

2【事業の内容及び営業の概況】

<訂正前>

(略)

委託会社は、2023年4月1日に、SBIアセットマネジメント株式会社を存続会社とし、新生インベストメント・マネジメント株式会社と合併しました。なお、商号はSBIアセットマネジメント株式会社を継承しました。

2023年3月末日現在、委託会社（合併前のSBIアセットマネジメント株式会社）が運用を行っている投資信託(マザーファンドは除きます)は以下の通りです。

(2023年3月末日現在)

| ファンドの種類 | 本数 | 純資産総額(百万円) |
|-----------|-----|------------|
| 追加型株式投資信託 | 247 | 1,712,769 |
| 単体型株式投資信託 | 586 | 1,730,579 |
| 合計 | 833 | 3,443,348 |

(ご参考)

2023年3月末日現在、新生インベストメント・マネジメント株式会社が運用を行っている投資信託(マザーファンドは除きます)は以下の通りです。

(2023年3月末日現在)

| ファンドの種類 | 本数 | 純資産総額(百万円) |
|------------|-----|------------|
| 追加型株式投資信託 | 56 | 169,725 |
| 単体型株式投資信託 | 30 | 40,461 |
| 単体型公社債投資信託 | 77 | 196,007 |
| 合計 | 163 | 406,193 |

<訂正後>

(略)

2024年1月末日現在、委託会社が運用を行っている投資信託(マザーファンドは除きます)は以下の通りです。

(2024年1月末日現在)

| ファンドの種類 | 本数 | 純資産総額(百万円) |
|------------|-----|------------|
| 追加型株式投資信託 | 295 | 2,938,548 |
| 単位型株式投資信託 | 564 | 1,661,264 |
| 単位型公社債投資信託 | 76 | 187,658 |
| 合計 | 935 | 4,787,470 |

3【委託会社等の経理状況】

以下の内容に訂正・更新します。

(1) 財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

委託会社であるSBIアセットマネジメント株式会社（以下「当社」という）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

なお、財務諸表及び中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（自2022年4月1日至2023年3月31日）の財務諸表及び当事業年度の中間会計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査及び中間監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2022年3月31日) | 当事業年度 (2023年3月31日) |
|------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | 569,638 | 801,610 |
| 関係会社短期貸付金 | - | 2,900,000 |
| 前払費用 | 22,597 | 47,781 |
| 未収委託者報酬 | 572,712 | 930,483 |
| 未収運用受託報酬 | 6,634 | 27,192 |
| その他 | 25,626 | 35,928 |
| 流動資産合計 | 1,197,210 | 4,742,996 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 12,234 | 26,185 |
| 器具備品 | 2,499 | 2,592 |
| 有形固定資産合計 | 14,734 | 28,778 |
| 無形固定資産 | | |
| 商標権 | 1,203 | 1,261 |
| ソフトウェア | 1,309 | 61,598 |
| その他 | 67 | 67 |
| 無形固定資産合計 | 2,579 | 62,926 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,051,219 | 688,191 |
| 関係会社株式 | 22,031 | 22,031 |
| 繰延税金資産 | 170,818 | 115,138 |
| その他 | 11,469 | 30,247 |
| 投資その他の資産合計 | 1,255,540 | 855,609 |
| 固定資産合計 | 1,272,854 | 947,314 |
| 繰延資産 | | |
| 株式交付費 | 4,170 | 2,654 |
| 繰延資産合計 | 4,170 | 2,654 |
| 資産合計 | 2,474,235 | 5,692,964 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2022年3月31日) | 当事業年度 (2023年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 預り金 | 1,926 | 118,440 |
| 未払金 | 384,755 | 647,383 |
| 未払手数料 | 331,045 | 446,336 |
| その他未払金 | 53,709 | 201,047 |
| 未払法人税等 | 105,725 | 159,134 |
| 未払消費税等 | 26,630 | 22,860 |
| 流動負債合計 | 519,036 | 947,819 |
| 負債合計 | 519,036 | 947,819 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 400,200 | 400,200 |
| 資本剰余金 | | |
| その他資本剰余金 | 1,350,000 | 3,352,137 |
| 資本剰余金合計 | 1,350,000 | 3,352,137 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 100,050 | 100,050 |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 240,094 | 853,521 |
| 利益剰余金合計 | 340,144 | 953,571 |
| 自己株式 | - | 63 |
| 株主資本合計 | 2,090,344 | 4,705,845 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 135,145 | 39,299 |
| 評価・換算差額等合計 | 135,145 | 39,299 |
| 純資産合計 | 1,955,198 | 4,745,145 |
| 負債純資産合計 | 2,474,235 | 5,692,964 |

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日) | 当事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日) |
|-----------|--|--|
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 2,468,525 | 3,810,647 |
| 運用受託報酬 | 10,623 | 77,528 |
| 投資助言報酬 | - | 20 |
| 営業収益計 | 2,479,148 | 3,888,196 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 1,557,540 | 1,786,085 |
| 広告宣伝費 | 7,417 | 4,516 |
| 調査費 | 38,368 | 129,242 |
| 委託計算費 | 147,361 | 403,078 |
| 営業雑経費 | 24,534 | 33,949 |
| 通信費 | 727 | 715 |
| 印刷費 | 21,008 | 25,129 |
| 協会費 | 2,630 | 8,050 |
| 諸会費 | 167 | 54 |
| 営業費用計 | 1,775,222 | 2,356,872 |
| 一般管理費 | | |
| 給料 | 123,426 | 268,902 |
| 役員報酬 | 23,837 | 41,915 |
| 給料・手当 | 99,438 | 215,025 |
| 賞与 | 150 | 11,961 |
| 福利厚生費 | 17,716 | 33,604 |
| 交際費 | - | 15 |
| 寄付金 | 4,402 | 2,352 |
| 旅費交通費 | 98 | 1,182 |
| 租税公課 | 17,336 | 28,732 |
| 不動産賃借料 | 10,160 | 20,989 |
| 退職給付費用 | 2,820 | 5,529 |
| 固定資産減価償却費 | 5,219 | 10,208 |
| 事務委託費 | 12,484 | 54,710 |
| 消耗品費 | 767 | 2,298 |
| 諸経費 | 13,098 | 18,323 |
| 一般管理費計 | 207,532 | 446,850 |
| 営業利益 | 496,394 | 1,084,473 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 4 | 21,136 |
| 受取配当金 | 32,400 | 80,435 |
| 雑収入 | 175 | 847 |
| 営業外収益計 | 32,579 | 102,419 |
| 営業外費用 | | |
| 為替差損 | 69 | 121 |
| 株式交付費償却 | 379 | 1,516 |
| 雑損失 | 36 | - |
| 営業外費用計 | 485 | 1,638 |
| 経常利益 | 528,489 | 1,185,254 |
| 特別損失 | | |
| 投資有価証券売却損 | - | 297,096 |
| 投資有価証券評価損 | 326,300 | 2,562 |
| 特別損失合計 | 326,300 | 299,658 |
| 税引前当期純利益 | 202,189 | 885,596 |

| | 前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日) | 当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 法人税、住民税及び事業税 | 163,769 | 276,030 |
| 法人税等調整額 | 100,993 | 3,861 |
| 法人税等合計 | 62,775 | 272,169 |
| 当期純利益 | 139,413 | 613,427 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

| | 株主資本 | | | | | | | 株主資本 合計 |
|-------------------------|---------|-----------|------------------|-----------------|-----------|-----------------------------|-------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 | |
| | | 資本 準備金 | その他 資本 剰余金 | 資本 剰余金 合計 | 利益 準備金 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | | |
| 当期首残高 | 400,200 | - | - | - | 30,012 | 2,310,952 | 2,340,964 | 2,741,164 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 合併による増加 | | | 50,000 | 50,000 | | 256,295 | 256,295 | 306,295 |
| 準備金の積立 | | | | | 70,038 | 70,038 | - | - |
| 剰余金の配当 | | | | | | 2,396,530 | 2,396,530 | 2,396,530 |
| 新株の発行 | 650,000 | 650,000 | | 650,000 | | | | 1,300,000 |
| 資本金から剰余金への振替 | 650,000 | | 650,000 | 650,000 | | | | - |
| 準備金から剰余金への振替 | | 650,000 | 650,000 | - | | | | - |
| 当期純利益 | | | | | | 139,413 | 139,413 | 139,413 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | 1,350,000 | 1,350,000 | 70,038 | 2,070,858 | 2,000,820 | 650,820 |
| 当期末残高 | 400,200 | - | 1,350,000 | 1,350,000 | 100,050 | 240,094 | 340,144 | 2,090,344 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------|----------------|-----------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 評価・換算差額等 合計 | |
| 当期首残高 | 295,400 | 295,400 | 2,445,764 |
| 当期変動額 | | | |
| 合併による増加 | | | 306,295 |
| 準備金の積立 | | | - |
| 剰余金の配当 | | | 2,396,530 |
| 新株の発行 | | | 1,300,000 |
| 資本金から剰余金への振替 | | | - |
| 準備金から剰余金への振替 | | | - |
| 当期純利益 | | | 139,413 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 160,254 | 160,254 | 160,254 |
| 当期変動額合計 | 160,254 | 160,254 | 490,565 |
| 当期末残高 | 135,145 | 135,145 | 1,955,198 |

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

| | 株主資本 | | | | | | | 株主資本 合計 |
|-----------------------------|---------|------------------|-----------------|-----------|-----------------------------|-------------|------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | | 自己株式 | |
| | | その他 資本 剰余金 | 資本 剰余金 合計 | 利益 準備金 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益剰余金 合計 | | |
| 当期首残高 | 400,200 | 1,350,000 | 1,350,000 | 100,050 | 240,094 | 340,144 | - | 2,090,344 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 合併による増加 | | 2,002,137 | 2,002,137 | | | - | | 2,002,137 |
| 当期純利益 | | | | | 613,427 | 613,427 | | 613,427 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | 63 | 63 |
| 株主資本以外の項目 の 当期変動額（純額） | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | 2,002,137 | 2,002,137 | - | 613,427 | 613,427 | 63 | 2,615,501 |
| 当期末残高 | 400,200 | 3,352,137 | 3,352,137 | 100,050 | 853,521 | 953,571 | 63 | 4,705,845 |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------|-----------------|----------------|-----------|
| | 其他有価証券 評価差額金 | 評価・換算差額等 合計 | |
| 当期首残高 | 135,145 | 135,145 | 1,955,198 |
| 当期変動額 | | | |
| 合併による増加 | | | 2,002,137 |
| 当期純利益 | | | 613,427 |
| 自己株式の取得 | | | 63 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額（純額） | 174,445 | 174,445 | 174,445 |
| 当期変動額合計 | 174,445 | 174,445 | 2,789,946 |
| 当期末残高 | 39,299 | 39,299 | 4,745,145 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1)子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2)その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

2. デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

主として定額法を採用しております。なお主な耐用年数は、建物が8-18年、器具備品が3-15年であります。

無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

4. 繰延資産の処理方法

株式交付費

3年間で均等償却しております。

5. 収益及び費用の計上基準

当社の事業である投資運用業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、以下のとおりであります。

| | |
|--------|--|
| 委託者報酬 | 委託者報酬は投資信託約款に基づく信託報酬として、投資信託約款に基づく公募・私募の投資信託財産の運用指図を行うことが履行義務であり、投資信託約款に基づく信託報酬で、ファンド設定以降、日々の純資産残高に一定率を乗じて算出された額が、当該ファンドの運用期間に渡り収益として認識されます。 |
| 運用受託報酬 | 運用受託報酬は投資家である対象顧客と投資一任契約を締結し、資産の運用を行うことが主な履行義務の内容であり、投資一任契約ごとに定められた運用対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、運用を受託した期間に渡り収益として認識されます。 |
| 投資助言報酬 | 投資助言報酬は対象顧客と投資顧問（助言）契約を締結し、当該顧客の資産運用に係る助言を行うことが主な履行義務の内容であり、投資助言（顧問）契約ごとに定められた助言対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、助言期間に渡り収益として認識されます。 |

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる財務諸表に与える影響はありません。

なお、「金融商品関係」注記の金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項における投資信託に関する注記事項においては、時価算定会計基準第27 - 3項に従って、前事業年度に係るものについては記載していません。

(貸借対照表関係)

| 前事業年度 (2022年3月31日) | 当事業年度 (2023年3月31日) |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。 | 1 有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。 |
| 建物 4,972千円 | 建物 9,215千円 |
| 器具備品 5,714千円 | 器具備品 5,643千円 |
| 合計 10,686千円 | 合計 14,859千円 |
| | 2 関係会社との取引に基づいて発生した債権は以下のとおりであります。 |
| | 関係会社短期貸付金 2,900,000千円 |
| | その他流動資産 23,099千円 |
| | 合計 2,923,099千円 |

(損益計算書関係)

顧客との契約から生じる収益

営業収益は全て顧客との契約から生じる収益であり、その他の収益に該当するものではありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 増加 | 減少 | 当事業年度末株式数 |
|---------|------------|--------|----|-----------|
| 普通株式(株) | 36,600 | 20,800 | - | 57,400 |

(注)普通株式の増加20,800株は、第三者割当による新株の発行による増加であります。

2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4．配当に関する事項

(1)配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|--------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2021年8月25日 株主総会 | 普通株式 | 1,090,680 | 29,800 | 2021年8月25日 | 2021年8月26日 |
| 2022年2月14日 株主総会 | 普通株式 | 1,305,850 | 22,750 | 2022年2月14日 | 2022年2月15日 |

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1．発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 増加 | 減少 | 当事業年度末株式数 |
|---------|------------|-----------|----|-----------|
| 普通株式(株) | 57,400 | 1,042,011 | - | 1,099,411 |

(注1)当社は、2022年7月28日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。

これに伴い、普通株式の発行済株式総数は、516,600株増加いたしました。

(注2)2022年8月1日を効力発生日とする吸収合併に伴い、結合当事企業の既存株主に対し、存続会社である当社普通株式の割当交付を行ったことにより、525,411株増加しております。

2．自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 増加 | 減少 | 当事業年度末株式数 |
|---------|------------|----|----|-----------|
| 普通株式(株) | - | 18 | - | 18 |

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加18株は、単元未満株式の買取りによる増加18株であります。

3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（金融商品関係）

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、自社が運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を投資有価証券として保有しております。また、デリバティブ取引については、保有する特定の投資有価証券の価格変動リスクを低減させる目的で利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。その他、一時的な余剰資金の運用については短期的な預金等に限定しております。なお、事業及び設備投資に必要な自己資金を有しているため、外部からの資金調達の計画はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、これらの債権は、受託銀行にて分別管理されている信託財産及び年金資産より生じる信託報酬債権であり、その信用リスクは軽微であります。投資有価証券はファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。この自己設定投資信託の一部につきましては、指数先物によるデリバティブ取引にてリスクの低減を図っております。営業債務である未払手数料等は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については経理規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理しております。

市場リスク（価格、為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に基準価額を把握することにより管理しております。

デリバティブ取引は、取引執行部門とヘッジ有効性の評価部門を分離し、日々評価額及び評価損益の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2022年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2022年3月31日）

| | 貸借対照表 計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------|----------------------|------------|------------|
| 投資有価証券 | 1,051,219 | 1,051,219 | - |
| 資産計 | 1,051,219 | 1,051,219 | - |
| デリバティブ取引(*3) | 41 | 41 | - |

(*1)「現金・預金」「未収委託者報酬」「未収運用受託報酬」「未払金」は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

| 区分 | 貸借対照表計上額 (千円) |
|-----------------|------------------|
| 関係会社株式 子会社株式 | 22,031 |

(*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は、純額で表示しております。

(注) 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

| | 1年以内 |
|----------|-----------|
| 現金・預金 | 569,638 |
| 未収委託者報酬 | 572,712 |
| 未収運用受託報酬 | 6,634 |
| 合計 | 1,148,985 |

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品
前事業年度（2022年3月31日）

| 区分 | 時価（千円） | | | |
|--------------------|--------|------|------|----|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| デリバティブ取引 指数先物関連 | - | 41 | - | 41 |
| 資産計 | - | 41 | - | 41 |

(注1)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

デリバティブ取引

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(注2)「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）

第26項に定める経過措置を適用した投資信託については、上記の表には含めておりません。貸借対照表における当該投資信託の金額は1,051,219千円であります。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、自社が運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を投資有価証券として保有しております。また、デリバティブ取引については、保有する特定の投資有価証券の価格変動リスクを低減させる目的で利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。その他、一時的な余剰資金の運用については短期的な預金等に限定しております。なお、事業及び設備投資に必要な自己資金を有しているため、外部からの資金調達の計画はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、これらの債権は、受託銀行にて分別管理されている信託財産及び年金資産より生じる信託報酬債権であり、その信用リスクは軽微であります。投資有価証券はファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。この自己設定投資信託の一部につきましては、指数先物によるデリバティブ取引にてリスクの低減を図っております。このほか、親会社に対し短期貸付を行っております。

営業債務である未払手数料等は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については経理規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理しております。

市場リスク（価格、為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に基準価額を把握することにより管理しております。

デリバティブ取引は、取引執行部門とヘッジ有効性の評価部門を分離し、日々評価額及び評価損益の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、「現金・預金」「関係会社短期貸付金」「未収委託者報酬」「未収運用受託報酬」「未払金」は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

当事業年度（2023年3月31日）

| | 貸借対照表 計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------|----------------------|------------|------------|
| 投資有価証券 | 688,191 | 688,191 | - |
| 資産計 | 688,191 | 688,191 | - |
| デリバティブ取引(注1) | 203 | 203 | - |

(注1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は、純額で表示しております。

(注2) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

| 区分 | 貸借対照表計上額 (千円) |
|-----------------|------------------|
| 関係会社株式 子会社株式 | 22,031 |

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|-----------|-----------|-------------|--------------|------|
| 現金・預金 | 801,610 | - | - | - |
| 関係会社短期貸付金 | 2,900,000 | - | - | - |
| 未収委託者報酬 | 930,483 | - | - | - |
| 未収運用受託報酬 | 27,192 | - | - | - |
| 投資有価証券 | 2,246 | - | - | - |
| 合計 | 4,661,531 | - | - | - |

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

当事業年度（2023年3月31日）

| 区分 | 時価（千円） | | | |
|----------|--------|---------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券 | | | | |
| 投資信託 | - | 688,191 | - | 688,191 |
| デリバティブ取引 | | | | |
| 指数先物関連 | - | 203 | - | 203 |
| 資産計 | - | 687,988 | - | 687,988 |

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資信託

市場における取引価格が存在せず、かつ、解約等に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないことから、基準価額を時価としており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

1. 子会社株式

前事業年度(2022年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

| 区分 | 貸借対照表計上額 (千円) |
|-------|------------------|
| 子会社株式 | 22,031 |

当事業年度(2023年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

| 区分 | 貸借対照表計上額 (千円) |
|-------|------------------|
| 子会社株式 | 22,031 |

2. その他有価証券

前事業年度(2022年3月31日)

(単位：千円)

| 区分 | | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|----------------------|--------|-----------|-----------|---------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | - | - | - |
| | (3)その他 | 1,641 | 1,000 | 641 |
| | 小計 | 1,641 | 1,000 | 641 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | - | - | - |
| | (3)その他 | 1,049,578 | 1,245,010 | 195,431 |
| | 小計 | 1,049,578 | 1,245,010 | 195,431 |
| 合計 | | 1,051,219 | 1,246,010 | 194,790 |

(注)表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

| 区分 | | 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|----------------------|--------|----------|---------|--------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | - | - | - |
| | (3)その他 | 684,519 | 627,800 | 56,719 |
| | 小計 | 684,519 | 627,800 | 56,719 |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | - | - | - |
| | (3)その他 | 3,672 | 3,747 | 75 |
| | 小計 | 3,672 | 3,747 | 75 |
| 合計 | | 688,191 | 631,547 | 56,644 |

(注)表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

3. 売却したその他有価証券

前事業年度(2022年3月31日)
該当事項はありません。

当事業年度(2023年3月31日)

(単位：千円)

| 区分 | 売却額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|--------|---------|---------|---------|
| (1)株式 | - | - | - |
| (2)債券 | - | - | - |
| (3)その他 | 311,403 | - | 297,096 |
| 合計 | 311,403 | - | 297,096 |

4. 減損処理を行ったその他有価証券

当事業年度において、投資有価証券（その他有価証券の投資信託）について2,562千円の減損処理を行っております。なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前事業年度（2022年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

株式関連

| 区分 | 取引の種類 | 契約額等 (千円) | 契約額等の うち1年超 (千円) | 時価 (千円) | 評価損益 (千円) |
|------|--------------|--------------|------------------------|------------|--------------|
| 市場取引 | 指数先物取引 買建 | 10,356 | - | 41 | 41 |
| 合計 | | 10,356 | - | 41 | 41 |

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づいております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

当事業年度（2023年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

株式関連

| 区分 | 取引の種類 | 契約額等 (千円) | 契約額等の うち1年超 (千円) | 時価 (千円) | 評価損益 (千円) |
|------|--------------|--------------|------------------------|------------|--------------|
| 市場取引 | 指数先物取引 買建 | 7,735 | - | 203 | 203 |
| 合計 | | 7,735 | - | 203 | 203 |

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づいております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度（自2021年4月1日至2022年3月31日）2,820千円、当事業年度（自2022年4月1日至2023年3月31日）5,529千円であります。

(税効果会計関係)

| 前事業年度 (2022年3月31日) | 当事業年度 (2023年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|-----------|--------|-------|-------|---------|-------|--------------|--------|-----|-------|----------|---------|--------|---|----------|---------|---|---|----------|---|-----------|---------|--|-------|-------|-----------|---------|-------|-------|---------|-------|-----|--------|----------|---------|--------|---|----------|---------|--------------|--------|----------|--------|-----------|---------|
| <p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">電話加入権</td> <td style="text-align: right;">438千円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券評価損</td> <td style="text-align: right;">99,913</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">3,406</td> </tr> <tr> <td>その他未払税金</td> <td style="text-align: right;">3,817</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">59,644</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">3,598</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">170,818</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">170,818</td> </tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">-</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">170,818</td> </tr> </table> | 電話加入権 | 438千円 | 投資有価証券評価損 | 99,913 | 未払事業税 | 3,406 | その他未払税金 | 3,817 | その他有価証券評価差額金 | 59,644 | その他 | 3,598 | 繰延税金資産小計 | 170,818 | 評価性引当額 | - | 繰延税金資産合計 | 170,818 | - | - | 繰延税金負債合計 | - | 繰延税金資産の純額 | 170,818 | <p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">電話加入権</td> <td style="text-align: right;">438千円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券評価損</td> <td style="text-align: right;">100,697</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">7,131</td> </tr> <tr> <td>その他未払税金</td> <td style="text-align: right;">5,470</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">18,744</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">132,482</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">132,482</td> </tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">17,339</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">17,339</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">115,142</td> </tr> </table> | 電話加入権 | 438千円 | 投資有価証券評価損 | 100,697 | 未払事業税 | 7,131 | その他未払税金 | 5,470 | その他 | 18,744 | 繰延税金資産小計 | 132,482 | 評価性引当額 | - | 繰延税金資産合計 | 132,482 | その他有価証券評価差額金 | 17,339 | 繰延税金負債合計 | 17,339 | 繰延税金資産の純額 | 115,142 |
| 電話加入権 | 438千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券評価損 | 99,913 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未払事業税 | 3,406 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他未払税金 | 3,817 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他有価証券評価差額金 | 59,644 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 3,598 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産小計 | 170,818 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価性引当額 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産合計 | 170,818 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| - | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金負債合計 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産の純額 | 170,818 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電話加入権 | 438千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券評価損 | 100,697 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未払事業税 | 7,131 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他未払税金 | 5,470 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 18,744 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産小計 | 132,482 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価性引当額 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産合計 | 132,482 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他有価証券評価差額金 | 17,339 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金負債合計 | 17,339 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 繰延税金資産の純額 | 115,142 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p> | <p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>同左</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

（企業結合等関係）

（共通支配下の取引等）

当社は、2022年7月29日の臨時株主総会において、当社を吸収合併存続会社とし、同一の親会社を持つ会社であるSBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社ならびにSBI地方創生アセットマネジメント株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併契約の締結を承認決議し、効力発生日である2022年8月1日付をもって吸収合併いたしました。

1．取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び当該事業の内容

存続会社：当社

消滅会社：SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社

SBI地方創生アセットマネジメント株式会社

なお、事業の内容は、いずれも投資運用業を主とする金融商品取引業であります。

(2) 企業結合日

2022年8月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社とし、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社ならびにSBI地方創生アセットマネジメント株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併。

(4) 結合後企業の名称

SBIアセットマネジメント株式会社

(5) 取引の目的

アセットマネジメント事業3社の経営資源を統合することにより、業務の効率化と収益力および組織体制の一層の強化を図ることを目的としております。

2．実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行いました。

（収益認識関係）

- 1．顧客との契約から生じる収益を分解した情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。
- 2．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報
「重要な会計方針5．収益及び費用の計上基準」記載のとおりであります。
- 3．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（セグメント情報）

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

（セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言葉の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（関連情報）

- 1．製品及びサービスごとの情報
単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。
- 2．地域ごとの情報
 - (1)営業収益
本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。
 - (2)有形固定資産
本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。
- 3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

| 顧客の名称 | 営業収益 |
|------------------------------------|---------|
| SBI中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ (年2回決算型) | 339,734 |

（報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(セグメント情報)

当社の事業は、投資運用業及び投資助言・代理業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連情報)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

(報告セグメントごとの減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア)財務諸表提出会社の親会社

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (百万円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等 の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の 内容 | 取引 金額 (千円) | 科目 | 期末 残高 (千円) |
|-----|------------------|-------|-----------------------|---------------|-------------------------------|---------------------------|-----------|------------------|----|------------------|
| 親会社 | モーニングスター 株式会社 | 東京都港区 | 3,363 | 金融情報 サービス業 | (被所有) 間接 100.0% | 役員の兼任 データ購入 人員出向・受入 | 増資の引 受 | 1,300,000 | - | - |

(注)当社の行った株主割当による増資（普通株式20,800株）を引き受けたものです。

(イ)財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (百万円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等 の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の 内容 | 取引 金額 (千円) | 科目 | 期末 残高 (千円) |
|-------------------------|----------------|-------|-----------------------|---------------|-------------------------------|-----------|---------------|------------------|-----|------------------|
| 同一の 親会社 を持つ 会社 | 株式会社SBI証券 | 東京都港区 | 48,323 | 証券業 | - | 販売委託 | 販売委託 支払手数料 | 640,268 | 未払金 | 167,508 |

(注) 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

- SBIアセットマネジメント・グループ株式会社（非上場）
- モーニングスター株式会社（東京証券取引所プライム市場に上場）
- SBIグローバルアセットマネジメント株式会社（非上場）
- SBIホールディングス株式会社（東京証券取引所プライム市場に上場）

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア)財務諸表提出会社の親会社

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|--------------------------------|-------|-------------------|--------------------------|---------------------------|--|-------|--------------|-----------|--------------|
| 親会社 | SBIグローバルアセットマネジメント株式会社 (注1) | 東京都港区 | 3,363 | 資産運用業、金融情報サービス事業子会社の持株会社 | (被所有) 間接 93.3% | 役員の兼任 データ購入 人員出向・受入 資金の貸付 (注2) | 資金の貸付 | 2,300,000 | 関係会社短期貸付金 | 2,300,000 |
| | | | | | | | 貸付利息 | 16,111 | 未収利息 | 17,188 |

(注1) SBIグローバルアセットマネジメント株式会社（旧商号モーニングスター株式会社）は、2023年3月30日付で商号を変更しております。

(注2) 資金貸付は、市場金利を勘案した合理的な利率を定め、その返済条件を協議によって決定しております。

(イ)財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-------------|------------------------|-------|-------------------|------------------|---------------------------|-------------------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| 同一の親会社を持つ会社 | ウエルスアドバイザー株式会社 (注1) | 東京都港区 | 30 | 投資助言業、金融情報サービス事業 | - | 運用への助言 資金の貸付 (注2) | 資金の貸付 | 600,000 | 関係会社短期貸付金 | 600,000 |
| | | | | | | | 貸付利息 | 5,019 | 未収利息 | 5,019 |
| | 株式会社SBI証券 | 東京都港区 | 48,323 | 証券業 | - | 販売委託(注3) | 販売委託支払手数料 | 770,398 | 未払金 | 186,563 |

(注1) ウエルスアドバイザー株式会社（旧商号モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社）は、2023年3月30日付で商号を変更しております。また、同日付で同一の親会社をもつイー・アドバイザー株式会社と吸収合併しております。

(注2) 資金貸付は、市場金利を勘案した合理的な利率を定め、その返済条件を協議によって決定しております。

(注3) 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

SBIグローバルアセットマネジメント株式会社

(旧商号モーニングスター株式会社。東京証券取引所プライム市場に上場)

SBIアセットマネジメント・グループ株式会社

(旧商号SBIグローバルアセットマネジメント株式会社。非上場)

SBIホールディングス株式会社

(東京証券取引所プライム市場に上場)

(1株当たり情報)

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|------------|---|---|
| | 自 2021年4月1日 至 2022年3月31日 | 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 |
| 1株当たり純資産額 | 3,406円27銭 | 4,316円15銭 |
| 1株当たり当期純利益 | 348円36銭 | 664円03銭 |
| | なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。 | なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。 |

(注) 当社は、2022年7月28日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。

前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株あたり純資産及び1株当たり当期純利益を算定しております。

1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 自 2021年4月1日 至 2022年3月31日 | 自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 |
| 当期純利益(千円) | 139,413 | 613,427 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益(千円) | 139,413 | 613,427 |
| 期中平均株式数(株) | 400,192 | 923,786 |

(注) 当社は、2022年7月28日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。

前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、前事業年度の期中平均株式数を算定しております。

(重要な後発事象)**(共通支配下の取引等)**

2023年3月30日の当社臨時株主総会において、当社を吸収合併存続会社とし、同一の親会社を持つ会社である新生インベストメント・マネジメント株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併契約締結の決議が承認可決され、効力発生日である2023年4月1日付をもって吸収合併いたしました。

1. 取引の概要**(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容**

存続会社：当社

消滅会社：新生インベストメント・マネジメント株式会社

なお、事業の内容は、いずれも投資運用業を主とする金融商品取引業であります。

(2) 企業結合日

2023年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、新生インベストメント・マネジメント株式会社を消滅会社とする吸収合併。

(4) 結合後企業の名称

SBIアセットマネジメント株式会社

(5) 取引の目的

経営資源の有効活用及び最適化を図ることを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行います。

(資本金の額の減少)

2023年3月30日の当社臨時株主総会において、2023年4月1日付で効力を生ずる新生インベストメント・マネジメント株式会社との吸収合併に伴い増加した資本金を同日付で減少させ、その他資本剰余金とすることの決議が承認可決されました。

(1) 目的

今後の資本政策の柔軟性及び機動性の確保を目的として、会社法第447条第1項の規定に基づき資本金の額を減少するものであります。

(2) 資本金の額の減少の方法

払戻を行わない無償減資とし、発行済株式総数を変更することなく資本金の額を減少するものであり、減少する資本金の額の全額をその他資本剰余金に振り替えるものであります。

(3) 減少する資本金の額 495,000千円（減少後の資本金の額 400,200千円）**(4) 資本金の額の減少の日程**

債権者異議申述公告日 2023年2月21日

債権者異議申述最終日 2023年3月22日

効力発生日 2023年4月1日

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

| | 当中間会計期間 (2023年9月30日) |
|-------------------|-------------------------|
| 資産の部 | |
| 流動資産 | |
| 現金・預金 | 2,391,027 |
| 関係会社短期貸付金 | 3,250,000 |
| 前払費用 | 54,872 |
| 未収委託者報酬 | 1,357,322 |
| 未収運用受託報酬 | 27,212 |
| その他 | ² 64,882 |
| 流動資産合計 | 7,145,317 |
| 固定資産 | |
| 有形固定資産 | |
| 建物 | ¹ 37,411 |
| 器具備品 | ¹ 2,058 |
| 有形固定資産合計 | 39,470 |
| 無形固定資産 | |
| 商標権 | 1,707 |
| ソフトウェア | 70,231 |
| その他 | 67 |
| 無形固定資産合計 | 72,005 |
| 投資その他の資産 | |
| 投資有価証券 | 675,905 |
| 関係会社株式 | 22,031 |
| 繰延税金資産 | 52,676 |
| その他 | 41,854 |
| 投資その他の資産合計 | 792,467 |
| 固定資産合計 | 903,943 |
| 繰延資産 | |
| 株式交付費 | 2,514 |
| 繰延資産合計 | 2,514 |
| 資産合計 | 8,051,775 |

(単位：千円)

当中間会計期間

(2023年9月30日)

| | |
|--------------|-----------|
| 負債の部 | |
| 流動負債 | |
| 預り金 | 141,829 |
| 未払金 | 1,306,531 |
| 未払手数料 | 744,190 |
| その他未払金 | 562,340 |
| 未払法人税等 | 130,824 |
| 流動負債合計 | 1,579,185 |
| 負債合計 | 1,579,185 |
| 純資産の部 | |
| 株主資本 | |
| 資本金 | 400,200 |
| 資本剰余金 | |
| その他資本剰余金 | 3,847,137 |
| 資本剰余金合計 | 3,847,137 |
| 利益剰余金 | |
| 利益準備金 | 100,050 |
| その他利益剰余金 | |
| 繰越利益剰余金 | 2,126,988 |
| 利益剰余金合計 | 2,227,038 |
| 自己株式 | 63 |
| 株主資本合計 | 6,474,312 |
| 評価・換算差額等 | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,722 |
| 評価・換算差額等合計 | 1,722 |
| 純資産合計 | 6,472,590 |
| 負債純資産合計 | 8,051,775 |

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

| 当中間会計期間 | |
|-------------------------------|-----------|
| (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | |
| 営業収益 | |
| 委託者報酬 | 3,167,329 |
| 運用受託報酬 | 59,980 |
| 投資助言報酬 | 20 |
| その他営業収益 | 8,771 |
| 営業収益計 | 3,236,102 |
| 営業費用 | |
| 支払手数料 | 1,472,961 |
| 広告宣伝費 | 2,279 |
| 委託調査費 | 113,527 |
| 委託計算費 | 354,934 |
| 営業雑経費 | 41,691 |
| 通信費 | 1,563 |
| 印刷費 | 33,941 |
| 協会費 | 6,077 |
| 諸会費 | 108 |
| 営業費用計 | 1,985,393 |
| 一般管理費 | |
| 給料 | 250,056 |
| 役員報酬 | 31,594 |
| 給料・手当 | 213,922 |
| 賞与 | 4,539 |
| 福利厚生費 | 48,034 |
| 旅費交通費 | 1,485 |
| 租税公課 | 12,959 |
| 不動産賃借料 | 21,920 |
| 退職給付費用 | 16,198 |
| 固定資産減価償却費 | 8,411 |
| 消耗品費 | 2,055 |
| 事務委託費 | 29,249 |
| 諸経費 | 319,919 |
| 一般管理費計 | 710,292 |
| 営業利益 | 540,416 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 24,134 |
| 投資有価証券売却益 | 131,942 |
| 雑収入 | 705 |

(単位：千円)

| | 当中間会計期間 |
|---------|-------------------------------|
| | (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) |
| 営業外収益計 | 156,782 |
| 営業外費用 | |
| 為替差損 | 328 |
| 株式交付費償却 | 882 |
| 営業外費用計 | 1,210 |
| 経常利益 | 695,988 |

(単位：千円)

当中間会計期間

(自 2023年 4月 1日
至 2023年 9月 30日)

| | |
|--------------|---------|
| 税引前中間純利益 | 695,988 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 117,166 |
| 法人税等調整額 | 99,285 |
| 法人税等合計 | 216,452 |
| 中間純利益 | 479,536 |

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2023年 4月 1日 至 2023年 9月 30日）

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | 自己株式 | 株主資本 合計 |
|---------------------------|---------|------------------|-----------------|-----------|-----------------------------|-------------|----|-----------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | | | | |
| | | その他 資本 剰余金 | 資本 剰余金 合計 | 利益 準備金 | その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金 | 利益剰余金 合計 | | | |
| 当期首残高 | 400,200 | 3,352,137 | 3,352,137 | 100,050 | 853,521 | 953,571 | 63 | 4,705,845 | |
| 当中間期変動額 | | | | | | | | | |
| 合併による増加 | | 495,000 | 495,000 | | 793,930 | 793,930 | | 1,288,930 | |
| 中間純利益 | | | | | 479,536 | 479,536 | | 479,536 | |
| 株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額） | | | | | | | | | |
| 当中間期変動額合計 | - | 495,000 | 495,000 | - | 1,273,466 | 1,273,466 | - | 1,768,466 | |
| 当中間期末残高 | 400,200 | 3,847,137 | 3,847,137 | 100,050 | 2,126,988 | 2,227,038 | 63 | 6,474,312 | |

| | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------------|-----------------|----------------|-----------|
| | 其他有価証券 評価差額金 | 評価・換算差額等合 計 | |
| 当期首残高 | 39,299 | 39,299 | 4,745,145 |
| 当中間期変動額 | | | |
| 合併による増加 | | | 1,288,930 |
| 中間純利益 | | | 479,536 |
| 株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額） | 41,021 | 41,021 | 41,021 |
| 当中間期変動額合計 | 41,021 | 41,021 | 1,727,445 |
| 当中間期末残高 | 1,722 | 1,722 | 6,472,590 |

注記事項

（重要な会計方針）

1．資産の評価基準及び評価方法

有価証券

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

2．固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

主として定額法を採用しております。なお主な耐用年数は、建物が8 - 38年、器具備品が3 - 20年であります。

無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

3．収益及び費用の計上基準

当社の事業である投資運用業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、以下のとおりであります。

委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき公募・私募の投資信託財産の運用指図を行うことが主な履行義務の内容であり、運用期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資信託約款に定められた信託報酬として、ファンド設定以降、日々の純資産残高に一定の報酬率を乗じて算出された額が、当該ファンドの運用期間に渡り収益として認識されます。

運用受託報酬

運用受託報酬は、投資家である対象顧客と投資一任契約を締結し、資産の運用を行うことが主な履行義務の内容であり、運用期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資一任契約ごとに定められた運用対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、運用を受託した期間に渡り収益として認識されます。

投資助言報酬

投資助言報酬は、対象顧客と投資助言（顧問）契約を締結し、当該顧客の資産運用に係る助言を行うことが主な履行義務の内容であり、助言期間の経過とともにその履行義務が充足されると判断しております。投資助言（顧問）契約ごとに定められた助言対象資産、残高、期間、料率等の条件に基づき算出された額が、助言期間に渡り収益として認識されます。

4．その他中間財務諸表作成のための重要な事項

繰延資産の処理方法

株式交付費 3年間で均等償却しております。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（中間貸借対照表関係）

1 有形固定資産の減価償却累計額

| | 当中間会計期間 (2023年9月30日) |
|------|-------------------------|
| 建物 | 27,808千円 |
| 器具備品 | 13,391千円 |

2 消費税及び地方消費税の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動資産の「その他」に含めて表示しております。

(中間損益計算書関係)

減価償却実施額

| | 当中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) |
|--------|--|
| 有形固定資産 | 2,959千円 |
| 無形固定資産 | 5,452千円 |

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度 期首株式数(株) | 増加 | 減少 | 当中間会計期間末 株式数(株) |
|-------|-------------------|---------|----|--------------------|
| 普通株式 | 1,099,411 | 308,937 | - | 1,408,348 |

(注) 2023年4月1日を効力発生とする吸収合併に伴い、結合当事企業の既存株主に対し、存続会社である当社普通株式の割当交付を行ったことにより、308,937株増加しております。

2. 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度 期首株式数(株) | 増加 | 減少 | 当中間会計期間末 株式数(株) |
|---------|-------------------|----|----|--------------------|
| 普通株式(株) | 18 | - | - | 18 |

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません((注)1.参照)。また、「現金・預金」「関係会社短期貸付金」「未収委託者報酬」「未収運用受託報酬」「未払金」は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

当中間会計期間(2023年9月30日)

| | 中間貸借対照表 計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------|------------------------|------------|------------|
| 投資有価証券 | 675,905 | 675,905 | - |
| 資産計 | 675,905 | 675,905 | - |

(注) 1. 市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

| 区分 | 中間貸借対照表計上額 (千円) |
|-----------------|--------------------|
| 関係会社株式 子会社株式 | 22,031 |

(注) 2. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

当中間会計期間（2023年9月30日）

| 区分 | 時価（千円） | | | |
|--------|--------|---------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券 | | | | |
| 投資信託 | - | 675,905 | - | 675,905 |
| 資産計 | - | 675,905 | - | 675,905 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資信託

市場における取引価格が存在せず、かつ、解約等に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないことから、基準価額を時価としており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 子会社株式

市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額

| 区分 | 中間貸借対照表計上額 （千円） |
|-------|--------------------|
| 子会社株式 | 22,031 |

2. その他有価証券

当中間会計期間（2023年9月30日）

| 区分 | | 中間貸借対照表 計上額（千円） | 取得原価（千円） | 差額（千円） |
|----------------------------|--------|--------------------|----------|--------|
| 中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | - | - | - |
| | (3)その他 | 112,654 | 78,187 | 34,467 |
| | 小計 | 112,654 | 78,187 | 34,467 |
| 中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | (1)株式 | - | - | - |
| | (2)債券 | - | - | - |
| | (3)その他 | 563,250 | 600,200 | 36,949 |
| | 小計 | 563,250 | 600,200 | 36,949 |
| 合計 | | 675,905 | 678,387 | 2,482 |

(デリバティブ取引関係)

当中間会計期間（2023年9月30日）

該当事項はありません。

（企業結合等関係）

共通支配下の取引等

2023年3月30日開催の当社臨時株主総会において、当社を吸収合併存続会社とし、同一の親会社を持つ会社である新生インベストメント・マネジメント株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併契約締結の決議が承認可決され、効力発生日である2023年4月1日付をもって吸収合併いたしました。

1．取引の概要

(1)結合当事企業の名称及びその事業の内容

存続会社：当社

消滅会社：新生インベストメント・マネジメント株式会社

なお、事業の内容は、いずれも投資運用業を主とする金融商品取引業であります。

(2)企業結合日

2023年4月1日

(3)企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、新生インベストメント・マネジメント株式会社を消滅会社とする吸収合併。

(4)結合後企業の名称

SBIアセットマネジメント株式会社

(5)取引の目的

経営資源の有効活用及び最適化を図ることを目的としております。

2．実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行いました。

（収益認識関係）

1．顧客との契約から生じる収益を分解した情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針3．収益及び費用の計上基準」記載のとおりであります。

3．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（セグメント情報等）

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言・代理業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

（関連情報）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

（報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項 目 | 当中間会計期間 (2023年9月30日) |
|---|-------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 4,595円93銭 |
| (算定上の基礎) | |
| 純資産の部の合計額(千円) | 6,472,590 |
| 純資産の部の合計額から控除する金額(千円) | - |
| 普通株式に係る中間会計期間末の純資産額(千円) | 6,472,590 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた中間会計期間末の 普通株式の数(株) | 1,408,330 |

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項 目 | 当中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) |
|--------------------|--|
| 1株当たり中間純利益金額 | 340円50銭 |
| (算定上の基礎) | |
| 中間純利益金額(千円) | 479,536 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - |
| 普通株式に係る中間純利益金額(千円) | 479,536 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 1,408,330 |

(注)潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

以下の内容に訂正・更新します。

| | 名 称 | 資本金の額 (2023年3月末日現在) | 事業の内容 |
|---------|---------------|------------------------|--|
| 受託会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 324,279百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。 |
| 再信託受託会社 | 株式会社日本カストディ銀行 | 51,000百万円 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。 |
| 販売会社 | 株式会社SBI証券 | 48,323百万円 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| | 松井証券株式会社 | 11,945百万円 | |

3【資本関係】

<訂正前>

- (1) 受託会社
該当事項はありません。
- (2) 再信託受託会社
該当事項はありません。
- (3) 販売会社
該当事項はありません。

<訂正後>

(持ち株比率5.0%以上を記載します。)

- (1) 受託会社
該当事項はありません。
- (2) 再信託受託会社
該当事項はありません。
- (3) 販売会社
該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2023年5月25日

SBIアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

郷右近 隆也

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBIアセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第37期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、SBIアセットマネジメント株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

ある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象に含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

2023年11月24日

SBIアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士 田 島 照 夫

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士 郷 右 近 隆 也

業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBIアセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第38期事業年度の中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、SBIアセットマネジメント株式会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
 2. XBRLデータは中間監査の対象に含まれておりません。

独立監査人の中間監査報告書

2024年3月28日

SBIアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

中島紀子

業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているSBI・iシェアーズ・日経225インデックス・ファンドの2023年7月12日から2024年1月11日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、SBI・iシェアーズ・日経225インデックス・ファンドの2024年1月11日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2023年7月12日から2024年1月11日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
 2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれておりません。

[次へ](#)